



キャリア教育は児童期から！

部長 松本安博

寒さ厳しい日々が続いています。今年は例年になくインフルエンザが流行し、初等部でも欠席者が出ています。各家庭におかれましても、引き続き手洗いとうがいの励行、睡眠時間の確保と栄養摂取に十分留意いただきますよう、お願いいたします。

先日、公的機関から一通のアンケートが送られてきました。そのアンケートは、グローバル化が進行する知識基盤社会を迎えた今、未来を創っていく子どもたちに、「起業家教育」をしているかどうかを尋ねるものでした。私は当初、てっきり「キャリア教育」の実施状況についてのアンケートと思い込んでいました。なぜなら、我が国の教育の質的転換が大きく図られておよそ20年が経過しますが、取組が遅々として進んでない一つに「小学校におけるキャリア教育の推進」があるとの思いを、私はかねてよりもっていたからです。私は、「キャリア教育」にも似た「起業家教育」の文字を見て、驚きを新たにしました。

私見ですが、平成8年の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」は、我が国の教育の質的転換を図る意味で、たいへん重要な提言だと考えています。その提言で示された教育理念「生きる力」は、いろいろな観点から様々な捉え方があるかと思いますが、私には、不易不変の教育理念のように思われます。そして、小学校における「生きる力」を育成する教育は、「社会的・職業的自己実現」の素地を培う教育でもあると思っています。「自己実現」とは、自らのよさや可能性を信じ、自らの夢や希望や目標に向かって努力を重ね、よりよい自らを実現しようとする人の姿のことで、となくキャリア教育といえますと、職場訪問や見学、体験を思い浮かべ、中学校や高等学校、大学の教育活動と思われがちです。しかし、人は皆、いずれは社会の形成者の一人となって、自ら生計を立てていかねばならないのであり、児童期から教科指導や道徳、特別活動、総合的な学習時間を含め、すべての教育活動を通して、勤労観・職業観を継続的に育てていく必要があると考えます。そして、常に働くことの意義や人の生き方に関心をもたせ、学ぶ意欲を引き出していくことが重要であると考えます。

次の枠内は、キャリア教育で育む能力をまとめたものです。

キャリア教育で育む4領域8能力

人間関係形成能力

- 自他の理解能力
- コミュニケーション能力
- 互いに認め合うことの大切さ 多様な集団での人間関係づくり

情報活用能力

- 情報収集・探索能力
- 職業理解能力
- 自己の進路や生き方の追究 学校の学びと職業生活の結び

将来設計能力

- 役割把握・認識能力
- 計画実行能力
- 自己の果たす役割の認識 進路計画に沿った選択行動

意思決定能力

- 比較・選択・決定能力
- 課題解決能力
- 自らに相応しい選択決定 希望進路実現への課題解決

文部科学省「小学校 キャリア教育の手引」平成22年より

そんな思いもあって、私は昨年暮れに、今話題の「Kidzania Tokyo (キッズニア 東京)」を見学してきました。そこには、およそ90の本物そっくりの店舗や会社、スタジオ、病院などのパビリオンがあり、そこだけで使える通貨(キッズ)がありました。仕事をして得たキッズは、いろいろなパビリオンで使うことができます。余ったキッズは、銀行に預け入れておくこともできます。夕方でしたが、会場はたくさんの幼児や小学生で賑わっていました。子どもたちは、興味のある仕事を選び、現役のプロの方々の指導を受けながら仕事の楽しさや厳しさを体験しているようでした。

初等部では、これまでも工場や施設、関係機関のご理解とご協力をいただき、見学をさせていただいたり、多くの専門家の方々による出前授業をしていただいたり、宿泊体験学習でも酪農体験を組み込んだりするなど、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を積極的に推進してきました。

これからもあらゆる教育活動においてキャリア教育の視点を取り入れ、働くことの意義を深めるとともに、人の生き方についての関心を高め、キャリア教育で育む4領域8能力の素地形成を図っていきたくと考えています。